

国語（小）部会 第26期（平成28・29年度）研究計画

1. 研究の経過

第20期
(平成16・17年度)

「すぐれた日本語の担い手を育成するために確かで豊かな国語の力を育む授業の創造」

- * 「話す・聞く」では、話し言葉という見えないものを記録するビデオの活用。
- * 「読むこと」では、ワークシートやノート指導、板書の工夫、児童が最後まで興味を持って取り組める工夫など、指導者が子どもたちにつけたい力をしっかり把握することの大切さを確認。

第21・22期
(平成18～21年度)

「すぐれた日本語の担い手を育成するために確かで豊かな国語の力を育む授業の創造」

- * 「読むこと」領域の研究において、同一単元での研究を進めてきたことは、話し合いが深まり適切であった。
また、子ども達につけさせたい力を押さえ、子ども達が興味を持って取り組むことができるような工夫が見られ、正確かつ豊かに読み取る力を培う指導がなされた。
- * 「書くこと」領域の研究において、子ども達が書きたくなるような丁寧な実践がなされた。また、指導項目を整理することや、ワークシートや題材の設定を工夫するなどという、具体的な実践について交流できた。

第23期
(平成22～23年度)

「すぐれた日本語の担い手を育成するために確かで豊かな国語の力を育む授業の創造」

- * 「書くこと」領域の研究においては、相手意識、目的意識を持たせ、精選・工夫されたワークシートを始めとする題材への取り組みませ方、書き方を継続して指導することにより、子ども達が思わず書きたくなるような実践が数多く見られた。
- * 「読むこと」領域の研究においては、学習指導要領改訂による新教科書のもと、新しい教材を中心としてワークシート・板書・指導計画の工夫など多様な指導法が交流された。

第24期
(平成24～25年度)

「確かで豊かな日本語の力をつける授業を創造し、子どもたちが言葉を通しておもしろいを共有する力を育む」 ～つけたい力を明確にした授業実践を通して～

- * 社会の多様性に対応できる児童の育成、学習指導要領の改訂、児童の実態による教育現場の要求、部会員の要望から、新しい研究課題を設定。
- * 「目の前にいる子どもたちの実態から、どんな力をどのように身につけさせるべきなのか」を考え、授業実践を通して探る2年間。

第25期
(平成26～27年度)

「総合的な国語の力を育成する、多彩な学習構成の創造」
～文学的文章を支える「表現のしぐみ」に着目して～

- * 従前の部会研究で積み上げてきた指導観を継承しつつ、「単元を貫いた言語活動の設定」等の新しい指導観を取り入れる試みとして、文学的文章教材の指導における3つの「学習構成モデル」に基づく授業展開、「表現のしぐみ」に着目した年間の指導計画作成を柱とした実践の交流。
- * 1年間を見通し、いつ、何を学ぶかを、明確に意識した指導計画および授業作りに取り組み、目の前の子どもたちの実態に応じた「総合的な国語の力」の育成、伸長を図った。